

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	名古屋市立栄小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	夢中になってやってみよう！自分たちでDo！ ～失敗してもだいじょうぶだよ～

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1. 活動に至る経緯

昨年度は、教科学習において、自由進度学習を取り入れるなどして「自律した学び手」を育てることに取り組んできた。しかし、教科の学習だけでは、自分で考え行動する子どもの姿にせまることが難しかった。そこで、栄小学校では昨年度末に学校最上位目標を、子ども、保護者の願いを受けて職員で話し合い、「夢中になってやってみよう！自分たちでDo！」とし、学校生活全体で「自律した学び手」の育成に向けて取り組むことにした。

2. 活動・研究の目的(ねらい)

授業改善に加え、学校行事や縦割り活動、学校のきまりの見直しなど、学校教育全ての場面で「子ども主体」の学校づくりを目指す。

3. 活動内容

主に①生活科・総合的な学習の時間を核とした探究学習 ②学校行事の企画・運営 ③異学年集団の縦割りグループ活動 について報告する。

①生活科・総合的な学習の時間を核とした探究学習

探究学習に取り組むにあたり、PBL(Project Based Learning)の手法を参考に実践を進めた。特に実践序盤の各学年の探究テーマに「触れる」こと、そこから知りたい「問いの設定」に重点をおき、取組を進めた。

5年生のテーマ「環境」では、「触れる」で本助成事業を活用して、森林学習に出掛けた。そこで林業をしている方を講師として、話を聞いて林業について学んだり、実際に間伐体験をしたりした。実際に働く人から話を聞いたり、体験したりする、本物に触れたことで、環境への興味をより深めることができ、その後の探究活動の質を高めることにつながった。

また、発表用の衝立型のホワイトボードや、児童用タブレット端末とプロジェクターをつなぐUSBケーブルを購入した。探究学習のグループの話し合いでホワイトボードを活用した。また、グループ毎に探究した内容をホワイトボードに投影したり、作成物を掲示したりして、成果を効果的に発表することができた。



②学校行事の企画・運営

子ども主体の学校行事として、5月の「スポーツフェスティバル」、11月「栄フェスティバル」の2つがある。

5月の「スポーツフェスティバル」では、これまでの運動会に変え、子どもが種目やルールを考えて、参加する競技も選択させた。スポーツに親しむことをねらいとし、これまでの赤白の勝ち負けにこだわらない、子どもの自由な発想から生まれる種目やルールがあり、子どもの満足度も高かった。開会式も、子どもの意見を取り入れた、子どもが進めるセレモニーに変更した。有志によるダンスパフォーマンスもあり、見に来た来賓や保護者からも好評であった。

11月の「栄フェスティバル」では、お店回りをを行った。各学年でわなげやゲームなど、ワークショップの内容を考え、お客さんに対応するために必要な仕事や役割を考えて、準備や練習を進めた。当日は、保護者にもお客さんとして参加していただき、盛り上がりを見せた。



計画やお店を運営する際、他の予算で購入した衝立型のホワイトボードが役に立ったが、数が不足していたため、本助成事業で追加購入した。

③異学年集団の縦割りグループ活動

昨年までも、異学年集団による縦割りグループ活動は行ってきたが、体育館に全グループを集め、集会委員会が出すなど、全体での活動であった。今年度から、グループ毎に使用する部屋を分けて、高学年が中心となって月に1回程度、自己紹介やゲームをして関わる活動に変えた。1年目で、1グループに各学年1～3人ほどのグループのため、年度当初は高学年がなかなかうまく進行できない姿が見られた。それでも、後期には頑張る活動を盛り上げようとする子どもの姿が多く見られるようになっていった。このような姿を下の学年の子どもたちも見て経験を積むことで、各小グループでのリーダーが育っていくことを期待している。

また、秋に行った縦割り遠足では、出発前に縦割りグループで、校内で謎解きをする新たな企画をしたり、公園で遊ぶ中に、各グループの低学年が企画した遊びを一緒に行ったりする姿が見られた。

昨年まで受け身で参加してきた活動から、変化してきたことを実感している。

④学校のルールの見直し

昨年3月、現在の6年生から、シャープペンシルの使用と遊びのルールについて見直しの提案があった。職員間でも、「自律した学び手」を育てるためには、「〇〇はだめ（禁止）」というルールではなく、子ども自身で、学習に必要なかどうか、安全かどうか、人に迷惑をかけないか、など考えさせる議論が進んでいた。これまで、禁止になっていた理由も学級で考え、自分たちで使い方のルールを考え、提案することで、2つのルールを変えるに至った。今年度は、次の3つを柱に、子どもたちで判断させるようにしている。① 健康・安全に気をつけよう ② みんなが気持ちよく過ごせるようにしよう ③ 学習に必要な物を用意しよう

とはいうものの、1年生から6年生まで発達段階も違う子どものため、失敗してしまうことも多い。学校のルールで禁止だから、ではなく、なぜいけないのか一緒に考えるように指導している。

3. 子どもたちへの効果(成果・課題)

2月に、今年最後の授業参観があった。3年生以上の子どもたちは、1年間、総合的な学習での取組を振り返り、成果や課題を保護者に発表していた。個人差はあっても、自分がやってきたことに自信をもち、自分の言葉で生き生きと伝えており、自律した学び手に近付いた姿と考える。子どもも教師も、新たな挑戦をはじめたばかりである。まだ手探りの中、うまくいかなかったことも多い。来年度も継続し、互いに修正を重ねていく。子どもがより「自律した学び手」となるよう、教師の伴走者としての力量をチーム栄で高めていきたい。